

山形県の泌尿器科医会活動状況報告

寒河江市立病院
久保田洋子

山形の歳時記

この9月はコロナの緊急事態宣言で県外に出ないで連休を過ごしております。山形の秋は、紅葉もきれいです。通勤の峠越え時には毎日紅葉のトンネルをくぐっていますので、私としては、紅葉狩りは却下です。したがって、休日には日本海側まで出向いて、酒田港で、初めてのたこ釣りに挑戦しました。一日目はタコ1匹、2日目には4匹を獲得しました。まったく釣れない日もありましたが、9月の休日はタコと小鰯釣りで、十分楽しめました。山形県は内陸なのではないかと思われがちですが、日本海に面しており、いろいろな楽しみ方ができます。また、秋は新米が取れますが、山形の「つや姫」(米)はなかなか逸品です。味が濃い米で、私としては、「酒のつまみにもなる米」と独断で言っています。まあ、味が濃いので、やけにおいしいのですが、目立ちたがり、主役を張りたがりの感があります。農家の方々に言わせると、おかずを喰ってしまうので毎日の食べるには向かないかなとのこと。興味がある方はお試しを。

山形の冬は、雪で始まり雪で終わります。出身地東京から大学入学により山形に来た年は、初雪で道路や家々が真っ白に染まった中、なんてきれいなのだろう、音が雪に吸収され、なんて静かなのだろうと雪を楽しみ、スキーにも日帰りで何度も出向いたものですが、その年のうちに、1-2か月日照時間が全くない日を過ごし、暗いイメージとなり、2年目からは雪は、明らかに敵になりました。雪の中で露天温泉につかって、泊りの忘年会を楽しむのが、長い間、冬の唯一の楽しみとなりましたが、コロナのご時世でそれも無くなっていますが。

山形の春は、私は実質4月末から5月なのではないかと感じています。4月の末に花が咲き始めたかと思うと、梅も桜も桃もチューリップも水仙もバラも一斉に咲き、一挙に気温が上がり、初夏もみんな一緒に来るようです。5月の連休頃が山形の一番華やかな季節だと思います。花をめぐる方なら、この時期の山形はお勧めです。6月になるとサクランボの出荷の季節となります。山形市の中心部の大病院以外は、多くの病院で空床が目立つようになり、外来もこの月ばかりは暇になります。この傾向は、稲刈りの季節とは比べ物にならないくらい顕著です。病院売り上げも、毎年減ります。

山形の夏は暑い。気象庁の計測点が少なかった時代は、日本の最高温記録が山形県でしたが、ここ数年は一位の座を譲っております。しかし、夜はぐっと気温が下がり、熱帯夜は多くはありません。温暖化前:20年くらい前は山形には熱帯夜は無いと思っていました。山形ネイティブの方が、山形が日本一暑いのだとおっしゃる度に、東京の夜の熱さを考えると、山形なんて、熱いうちに入らないと反論したものでした。

山形県の1年はこのように過ぎて、首都圏に比べて、静かに日々が進んでゆきます。こんなのかな所ですので、ご想像の如く医師数が少ない県になっていますが、驚いたことに、人口10万当たりの泌尿器科医の数としては、東京都(約6.0)より多く、大阪府(7.35)に匹敵(山形 7.45)する多さのようです(2016年人口動態数値と都道府県発表泌尿器科医数から久保田が計算)。そんな山形から、山形県の臨床泌尿器科医会の活動状況をご報告い

たします。

はじめに

日本臨床泌尿器科医会（日臨泌）山形県会員の活動報告依頼のお話をいただいて、報告は一言「年余にわたり、山形県の会員活動はありません。」で終わってしまう状況に、どうしたものかと、考え込んでしまいました。無い知恵を絞って、先ず、山形県の日本臨床泌尿器科医会員に日臨泌の活動への意識と今後の活動に対する期待を伺い、報告することとしました。また、山形県は泌尿器科診療医師数に対し日臨泌会員が少ないようでしたので、会員以外の先生方の日臨泌に対する意識を調査させていただき、今後の山形県での活動につなげる道筋に明かりを灯せればと考えました。

7月半ばに原稿ご依頼をいただき、締め切りまで1カ月と、ちょうど子供の夏休みの宿題の期間でもあり、小学生の夏休み自由研究のレベルの報告となってしまいましたが、お許しください。

調査の方法

日本臨床泌尿器科医会事務局に山形県の会員数の推移資料と現在の会員名簿をいただき集計しました。現在の全会員6人にアンケートを送付し、日臨泌の利用状況および今後の活動への期待を調査しました（表1）。

次に、泌尿器科領域で保険請求をしている山形県内医療機関から、泌尿器科を標榜している医師のリストを作成し、全83人中、医会会員6人を除く77人に、日臨泌に対する意識について、アンケートを送付し、ご意見を伺いました（表2）。この中には、皮膚科や外科ご出身の医師も含まれます。

また、山形泌尿器科研究会事務局に会員数の資料及び現在の会員名簿をいただき、およその泌尿器科学会会員数の参考と考えて資料を作成しました（図1）。但し、山形泌尿器科研究会会員には、山形県外の山形大学連病院に勤務する医師が含まれています。

アンケートは、個人情報にあたる内容は含まない問で構成し、回答の送付をもって調査に同意をいただいたこととしました。

調査の結果

1. 日本臨床泌尿器科医会会員数について

現在、山形県の日本臨床泌尿器科医会会員数は6人で、勤務形態は開業医がやや多い傾向ですが、勤務医も入会しています。会員は、全員30年以上の経験年数を持つ年長者でした（表1）。会員数はここ20年にわたりほとんど変動がなく、新入会、退会はあったものの、通してみると、6人で安定していました。一方、山形泌尿器科研究会の会員数は、山形大学

の教授移動に伴う多少の変動もありましたが、押しなべて増加傾向であり（図1）、また、泌尿器科標榜医院数も平均で1年に1件程度の増加がみられています（図1、表2）。従って、山形県内の泌尿器科医師に対する日臨泌会員の割合は、年々減少しており、また、山形県の泌尿器科開業医中の日臨泌会員割合も、2000年の45%（5/11）に対し2020年は13%（4/30）にまで減少しました。

2. 日本臨床泌尿器科医会山形県会員の日臨泌への意識と今後の期待について

アンケートには、会員6人全員から回答をいただきました。会員は全員日臨泌の有益性を認識しており、この内、4人は保険情報、保険診療の手引きを、1人は臨床検討会を有益だと感じていました。セミナー情報を利用している者はありませんでした（表3）。

今後の医会活動への要望は、6人中4人は「特にない」との回答でしたが、2人から、保険に関する活動の強化が要望されました（表4）。日臨泌会員で県内の活動を開始するとした場合に期待する点として、保険にかかわる項目が挙げられるとともに、開業の様な高度な検査機器がない施設での診療の工夫等の情報交換の場の設定が提案されました（表5）。

3. 日臨泌会員でない泌尿器科診療医師の意識調査について

アンケートを送付した全77人中43人（56%）の方から回答を得ました。開業医と勤務医の回収率はほぼ同等でした（表6）。山形県の泌尿器科診療医師中、日臨泌の存在を知らなかった者は72%に上り、開業医と勤務医の認知率に差はありませんでした（表6）。アンケートに回答しなかった医師が日臨泌を知っている可能性は高いとは考えにくいので、認知率はさらに低いと思われました。日臨泌を知らなかったと回答した31人中20人は泌尿器科経験年数が20年以上であり、また、会員と非会員の回答者中20年以上の泌尿器科経験者計36人のうち20人が知らなかったと回答していたこととなります。

日臨泌の存在を知っていると回答した非会員医師12名の「入会していない理由」では、約6割が「会の活動が分からなかったから」を挙げ、次に、約4割が「入会しなくても困らないから」と回答しました（表7）。この結果から、会の存在に気付いていても、活動内容の認知度も極めて低いことが明らかになりました。

次に、会長の「設立目的」記事の要点を簡記したうえで、入会の意向有無を尋ねましたが、「入会する」と答えた者は1人のみで、40%の者が「入会しない」を選択しました（図2）。しかし、一方、「山形県内で日臨泌事務局を作るとすると、どのような活動をする」とよいと思うか」と問うと、特に開業の医師から、保険請求、診療、トラブル等についての情報交換、互助の場を要望する等様々な意見が寄せられました（表8）。また、一方で、また、「会のコンセプトや活動が分からない」といった意見も寄せられました（表8）。

結果から考えたこと

山形県においては、日臨泌の認知度が低いという、存在を認知している者においても、知

っているのは会の名前程度で、活動内容はほとんど知られていない状況であることを再認識させられました。また、アンケート回答者中、泌尿器科経験年数が20年以上の医師の約30%が日臨泌を認知していなかったことから、若い医師が泌尿器科を志し、日本泌尿器科学会への入会を教えられる時期に、日臨泌についての情報が教えられてこなかったであろうと推測しました。さらに、認知度が低い点においては、開業医も勤務医も同様でしたので、開業のタイミングで日臨泌の存在を教え合う習慣がないこと分かりました。

しかし、日臨泌会員の会への満足度は高く、日臨泌の活動内容を知り、うまく利用できれば、本会の有益性の高いことが実感できると考えられます。また、活動への希望・要望内容から、特に開業の医師は、保険を含む診療の情報を交換する場を欲している状況も見えてきました。日臨泌の存在と活動内容を知る機会を設ければ、泌尿器科医師として臨床を続ける中で、日臨泌の活動を利用したくなる機会に遭遇し、その時にきっと我々が積み上げてきたことが役立つと考えられます。

山形県では長い間、日臨泌の紹介活動がなされておりましたので、その活動を利用すれば容易に打開できる局面も、各自が自力で切り抜けてきて、現在、「入会しなくても困らない」状況を構築しているのだと考えられます。その状況下にありますから、一度の紹介で皆が日臨泌の有益性を納得できるとは思えません。活動のパンフレット配布や魅力的な臨床検討会や講演会開催等情報を、山形県に合った方法で、忍耐強く紹介し続ける等の手段が必要かもしれません。また、若年者への紹介体制を持った地域の秘訣を拝受し、導入することも必要ではないかと考えられます。また、日臨泌の歴史でも語られているように、泌尿器科学会とは別に、地域に密着して、構えないで気楽にもの言える場を、山形の地域で作ることが必要なのではないかと感じました。

おわりに

山形県は日臨泌会員が少なく、認知度も低い状況ですが、日臨泌の活動を利用できそうな悩みを持つ泌尿器科医の存在も見えてきており、今後、まずは紹介活動が重要と考えられました。

表1 日本臨床泌尿器科医会 山形県の現状 (2021年)

・会員数は6人

開業	4人
勤務医	2人

経験年数	
30 ~ 34 年	1人
35 ~ 39	1人
40 ~ 44	2人
45 ~	2人

表2 山形県における泌尿器科の現況 (2021年)

• 泌尿器科標榜医師数 83 人 (開業 31, 勤務医 52)

• 泌尿器科標榜病院 22
非常勤医による外来を含む

• 泌尿器科標榜医院 30

開院からの期間	
~4年	4
5~9年	2
10~14年	5
15~19年	6
20~24年	5
25~29年	4
30年 ~	4

表3 日臨泌山形県会員へのアンケート ①

- 回収率 100% (6 / 6 人)
- 会員になって有益と感じますか (はい 6, いいえ 0)

有益だと感じる点

• 保険診療の手引き	4
• 保険情報 Q&A	3
• 会員専用コンテンツの保険情報	3
• 臨床検討会	1
• セミナー情報・関連学会情報	0
• その他	1

(コロナでエタノールが入手できなかった時, 医会で手配いただいた)

表4 日臨泌山形県会員へのアンケート ②

今後の医会活動への要望

- 特に無い 4人
- 保険診療に関する情報の強化と継続 1人
- 開業医に重点を置いた保険点数の設定活動 1人

表5 日臨泌山形県会員へのアンケート ③

山形県の活動として期待すること（自由記載）

- 山形県の（泌尿器科担当の）保険委員を招聘して、保険請求の疑問点をZOOM等で談義する
- 保険請求の疑問点，納得できない点等を定期的に取りまとめて，医会の保険委員に情報をもらう
- 山形県の会員ページを作り，高度の検査機器がない施設での診療の工夫等をアップしたり相談し合ったりする

表6 会員以外の泌尿器科医へのアンケート ①

- 回収率 56% (43/77人)

開業医	56% (15/27人)
勤務医	52% (26/50人)
勤務形態記載なし	2人

- 日本臨床泌尿器科医会を知っていましたか

知らなかった 72% (31/43人)

開業医	67% (10/15人)
勤務医	73% (19/26人)
勤務形態記載なし	2人

知っていた 28% (12/43人)

開業医	33% (5/15人)
勤務医	27% (7/26人)

表7 会員以外の泌尿器科医へのアンケート ②

医会を知っていた12人の「入会していない理由」

入会していない理由	開業医 (5人)	勤務医 (7人)
活動が分からなかったから	3	4
入会しなくても困らないから	1	3
入会しても利益がないから	1	0
開業医の会だと思ったから	0	1

複数回答可

表8 会員以外の泌尿器科医へのアンケート ④

日臨泌の山形県内会員事務局を作るとしたらどんな活動をすればよいと思いますか（自由記載）

開業医からの意見

- 個別指導対策の指導をしてほしい
- 診療トラブルの相談に乗ってほしい
- 新しい情報を伝える場であってほしい
- 保険について教えてほしい
- 会のコンセプトが分からない
- 会の活動内容が分からない

勤務医からの意見

- 日本泌尿器科学会の1部門として活動してほしい
- クリニック相互の連携を担ってほしい
- 会の活動内容が分からない（2名より）

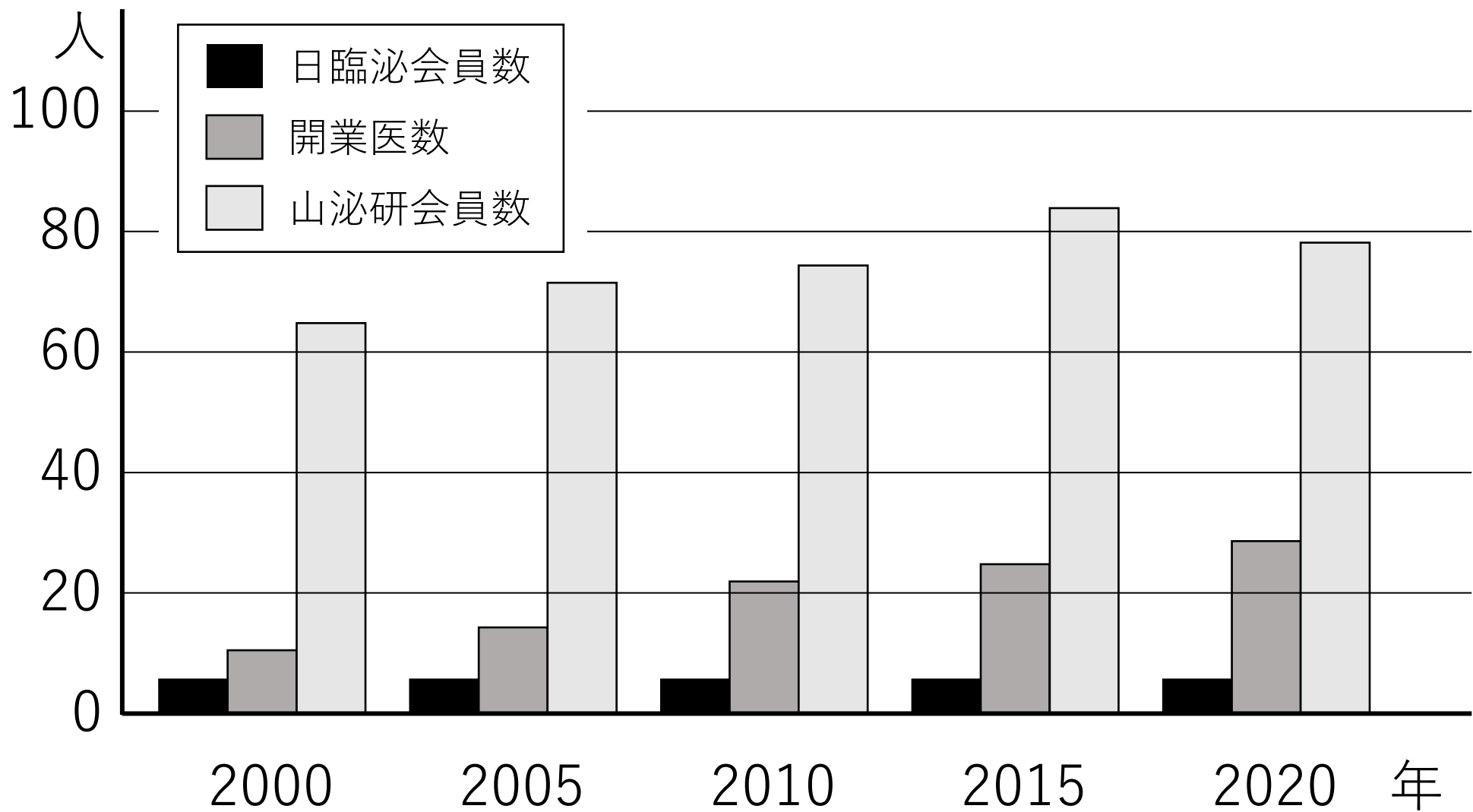


図1 山形県における日本臨床泌尿器科医会会員数の変化 山形泌尿器科研究会会員数・開業医の推移との比較

山形県の日臨泌会員は過去20年間に退会者、新入会者はあったものの、数は20年間にわたり6人であった。この間に開業医数は11人から31人に増え、山形泌尿器科研究会会員は68人から82人に増加した。

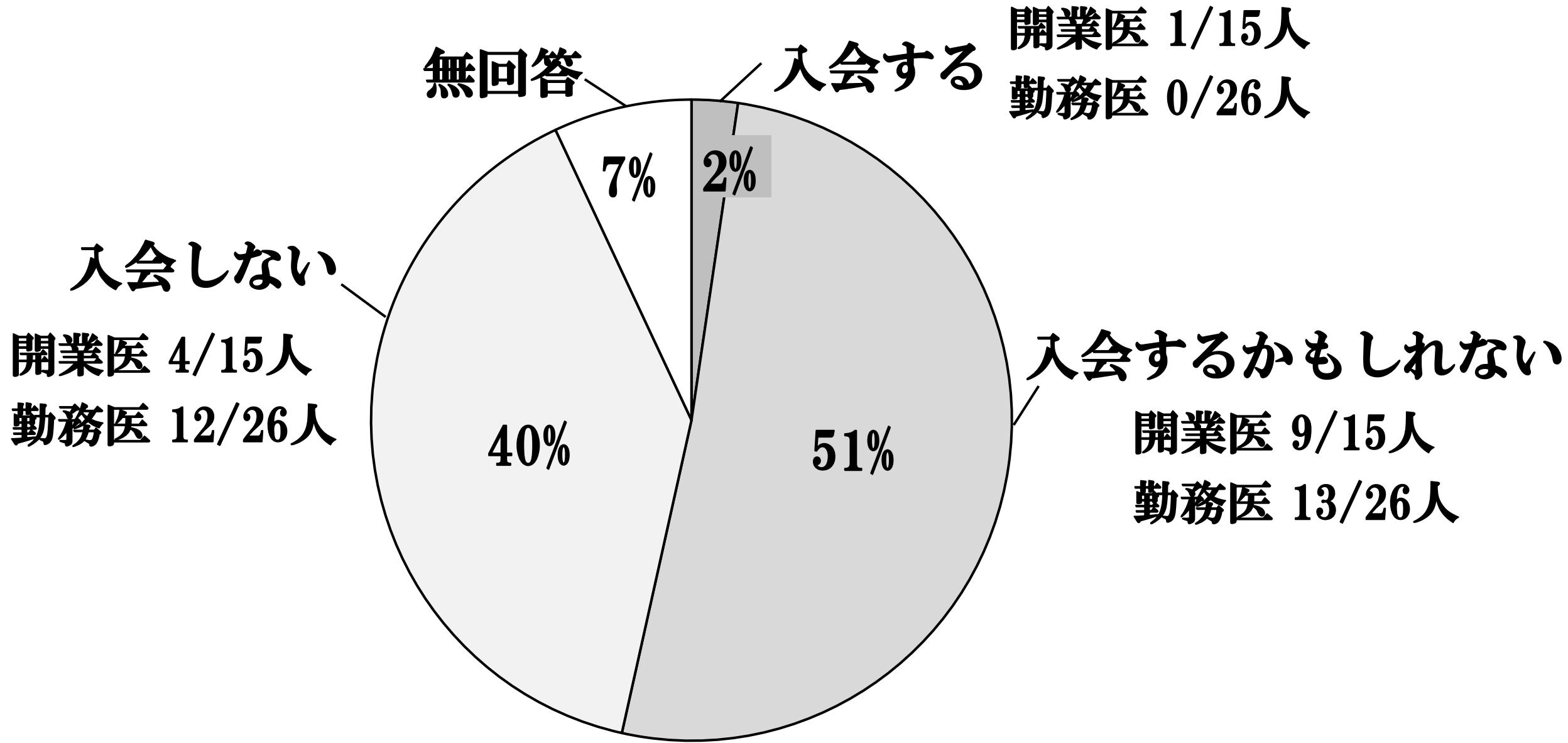


図2 会員以外の泌尿器科医へのアンケート ③

「日本臨床泌尿器科医会は現在、保険診療の手引き作成等保険診療の充実への取り組みや日常の一般診療の質向上を目指した取り組み、学会、医師会との連携等を行っていますが、もし山形県内会員用に事務局ができ、会員同士で上記のような相談ができるようになれば、利用・入会しますか？」の質問をし、日臨泌の利用・入会の意向を聞いた。利用・入会すると判断したものは1人（2％）にとどまった。利用入会しないと答えた者は40％程度であった。